

教育長 様

校番 092 広島県立尾道商業 高等学校長
(全日制 課程)**「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る
学科等の特色を生かしたカリキュラム開発研究指定校
令和5年度 実施報告書****1 学校の教育目標等**

(1) 教育目標

商業教育の拠点校として、根拠に基づいて考えを発信するとともに、周囲の人を巻き込んで行動できる人材を育成する。

(2) 育てたい生徒像及び学校として育成を目指す資質・能力

- ・根拠に基づいて自分の考えを発信できる（発信力）
- ・役割を果たす場面で、周囲を巻き込んで他者と協働して行動できる（協働力）
- ・課題解決場面で新たな価値を創造できる（創造力）
- ・社会人に求められる資質・能力のスキルアップに取り組むことができる（行動力）

(3) 学科等の特色

令和4年度より新学科「情報ビジネス科」がスタートし、1年生で「ビジネス基礎」（ビジネス探究）、2年生で「ビジネス探究E E」、3年生で「課題研究」の3科目で系統的にプロジェクト型学習を行っている。2年生からは、生徒の興味・関心に応じて授業を選択することができることや、様々な科目において、プロジェクト型学習で行うなど、主体的・対話的で深い学びの授業展開を行うことができるのが特徴である。また、高度情報通信社会で活躍する人材を育成するため、2年次に「ソフトウェア活用」、「プログラミング」、3年次に「アプリ開発」、「ネットワーク活用」、「プログラミング演習」などを設定し、情報ビジネス科における専門性の高い教育課程を編成している。

2 研究の概要

(1) 学科等の特色を生かしたカリキュラム開発の重点目標

プロジェクト型学習の推進を通し、主体的・対話的で深い学びを実現させ、学校として育成を目指す資質・能力の向上を目指す。

(2) 1年後の目指す学校の姿

学校として育成を目指す資質・能力を全教職員が共通認識をもち、各教科のねらいや育てたい資質・能力を教科を超えて連携することにより、学校全体として合理的に教育活動を展開する。また、すべての教科において、主体的・対話的で深い学びを教科の特性を踏まえつつ実践することにより、学校で行われる教育活動の全てにおいて、生徒自らが主体的に考え、自発的に決定し行動できる生徒集団を育成する。

(3) 令和5年度の目標

ア アウトプット（活動指標）

- ・育てたい資質・能力が様々な科目を通して1年間でどのくらい成長しているかを教職員で共通認識し、今後の教育活動につなげる。また、ビジネス基礎、ビジネス探究E E、課題研究と行った探究的な学習を系統的に行なってきたことの検証を行う。
- ・「生徒アンケート」について見直しを行い、マスタールーブリックにある資質・能力の習得状況を見取る。
- ・各科目での習得状況が1年間でどのくらい成長しているかを生徒アンケートにより把握し、授業改善へつなげる。
- ・「ビジネス基礎」（ビジネス探究）、「ビジネス探究E E」、「課題研究」、によるプロジェクト型学習により資質・能力がどの様に変化したか検証を行う。

イ アウトカム（成果目標）

- ・教職員研修会を実施し、教職員の資質・能力に対する理解を深める。研修後のアンケート調査において、「各授業においてマスタールーブリックの資質・能力を向上させる取組がなされている」と回答する教員の割合が80%以上となっている。
- ・「生徒アンケート」の見直しを行い、育てたい資質・能力が身に付いているかを検証する。「適切な情報源を選択し、根拠に基づいて自分の考えを発信できる」と回答する生徒が60%以上となっている。
- ・様々な教科・科目において探究的活動を推進し、「主体的で対話的な学び」を取り入れた授業を行っている」と回答する教員の割合が70%以上となっている。

(4) 令和5年度のカリキュラム開発の内容及び校内体制

ア カリキュラムの核とする教科・科目等名

商業・科目「ビジネス基礎」「ビジネス探究E E」「課題研究」

イ カリキュラム開発の概要

本校では1年生「ビジネス基礎」（ビジネス探究）を核として、2年生は「ビジネス探究E E」、3年生は「課題研究」と系統的にプロジェクト型学習を行っている。生徒が各教科・各科目で身に付けた資質・能力を相互に関連付け、課題を発見し、科学的根拠に基づいてよりよく課題を解決する考えを発信するとともに、周囲の人を巻き込んで行動できる人材へと育成するため、発信力・協働力・創造力・行動力の4つを育成するカリキュラムの開発を行った。

具体的には、地域の大学や企業と連携し、ビジネスに関する活動を行うことを通して生徒に課題を見いだし、それを解決するためのアイデアを考えさせ、提案を行わせた。

生徒の資質・能力の育成状況を評価するために、全教職員が参加する校内研修会を年2回行い、生徒の資質・能力が様々な科目において身に付いているかを検証した。

ウ 校内体制

- ・教職員研修会を実施し、マスタールーブリックにある資質・能力の生徒の現状を共有し、マスタールーブリックにある資質・能力を高めるための取組を様々な教科で話し合うことにより、自分の教科だけでなく、他の教科が何をしているのかを知る機会を作った。
- ・合同授業研究会では、科目「現代の国語」でマスタールーブリックにある発信力の育成を行うことを目的としたプロジェクト型の授業を実施した。これにより核となる科目以外での探究的な活動を推進することができ、教職員に探究的な学習の共感を得る機会を作った。
- ・学習成果発表会では、本校の探究的な活動の取組について生徒が発表する機会を作ることにより、学校で取り組んでいる活動を学校全体で共有することができた。その中で、多くの生徒・教員が関わることにより探究的な学習の理解を学校全体で深めることができた。
- ・尾商デパートでは、全クラスの生徒が日ごろの学習内容を活かし、仕入れから販売、決算までを行い生徒の主体的な学びを実現する行事である。この行事を商業科だけでなく全生徒と全教職員でビジネスについて体験的な学習活動として取り組むことで、生徒の主体的・対話的で深い学びを推進した。

(5) 学習評価

各学期に授業アンケートを実施し、学校として育成を目指す資質・能力が身に付いているかを客観的に把握し、学習や指導の改善に生かした。また、マスタールーブリックに関するアンケートを実施し、その結果を教職員研修会で共有するとともに、マスタールーブリックの資質・能力を高める取組を教職員間で共有することで、指導方法を見直した。

(6) カリキュラム評価

マスタールーブリックに関するアンケート分析

- ・発信力（レベル3以上）
1年 38.8% 2年 59.2% 3年 70.5%
- ・創造力（レベル3以上）
1年 46.1% 2年 63.2% 3年 67.4%
- ・協働力（レベル3以上）
1年 61.8% 2年 71.7% 3年 69.5%

・行動力（レベル3以上）

1年 42.1% 2年 61.8% 3年 69.5%

マスタールーブリックに関するアンケート結果によると本校の学校全体の資質・能力は学年が上がっていくにつれ上昇傾向にある。そのため、本校の教育課程はマスタールーブリックにある資質・能力を向上させていることが分かる。教育課程の特長としては探究的な学習を推進するとともに、地域連携による外部人材を活用した教育課程となっている。その中で、主体的・対話的で深い学びを目指したカリキュラムの改善を行った。なお、授業アンケートの「自ら進んで授業に参加している」という問いに対しては 89.9%が肯定的な回答をしており、生徒の主体性の高さが分かる。

3 令和5年度の成果及び課題

(1) 成果

[教職員アンケート結果]

①授業においてマスタールーブリックの資質・能力を向上させる取組がなされていると回答した教員の割合 73.5%

②「主体的で対話的な学び」を取り入れた授業を行っているという回答した教員の割合 85.3%

令和2年度より、ビジネス探究プログラムをスタートし、探究的な学習をおこなってきた。その中で、探究的な学習に対する教員の共通理解を教職員研修や研究授業を通して図った結果、上記のアンケート結果に結び付いたと考えられる。また、①のマスタールーブリックに関するアンケートでは目標値である 80%は到達しなかったものの多くの教員が取り組んでいることが分かった。

[生徒アンケート結果]

・「適切な情報源を選択し、根拠に基づいて自分の考えを発信できる」と回答した生徒の割合 85.1%

探究的な学習を3年間実施してきた結果、上のようなアンケート結果に結び付いたと考える。また、今年度は様々な分野で賞をもらうことができ、外部からの評価される一年でもあった。

[受賞内容]

- ・World Youth Entrepreneurship Challenge（世界大会）第3位
- ・全国商業高校Web アプリコンテスト 審査員特別賞（2チーム）
- ・商業生徒論文 優秀賞
- ・“届けよう、服のチカラ”アワード2023 最優秀賞（高校の部）
- ・令和5年度文部科学大臣優秀教職員表彰

(2) 課題

3年（12月末）でのマスタールーブリックに関するアンケート結果（レベル4の割合）

発信力 25.3% 創造力 21.3% 協働力 36.8% 行動力 22.1%

3年生での資質・能力のレベル4の割合を30%以上にすることが課題である。

4 令和6年度の研究目標及び取組内容

(1) 令和6年度の研究目標

ア アウトプット（活動指標）

・1年生から3年生までの商業科の「ビジネス基礎」「ビジネス探究EE」「課題研究」を中心としたプロジェクト型学習を継続させるとともに、尾商デパートに関連付け、イメージマップ等を活用した教科横断的な学習活動に取り組む。

・外部連携を継続し、地域との協働体制の基礎を構築し、生徒が主体的に活動できる場を提供する。

イ アウトカム（成果目標）

・マスタールーブリックにある資質・能力のレベル3以上が学年が上がるにつれ上昇している。

・3年次でのマスタールーブリックの資質・能力のレベル4の割合が30%以上となっている。

(2) 令和6年度のカリキュラム改善の内容及び校内体制

ア カリキュラム改善の概要

教育課程の見直しを行い、生徒がより主体的に学習できる環境の構築を目指すとともに、外部連携を積極的に推進し、授業の中に位置付け、組織的・計画的に実施できるものにする。

イ 校内体制

教育研究部が中心となり、様々な教科・科目と連携をし、積極的に探究的な学習の実施及び外部連携を行う。その結果、授業や学校行事で主体的・対話的で深い学びを自発的に行える教職員集団を醸成する。

